動物実験部会

目的

(a) 大学等における動物実験を伴う生命科学研究は、人の健康・福祉・先端医療の開発展開のみならず、動物の健康増進等における研究分野の進展においても必要な手段である。本部会は、「動物愛護及び管理に関する法律」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する法律」、及び文部科学省が策定した「研究機関等にとける動物実験等の実施に関する基本指針」を踏まえ、日本学術会議が作製した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」を参考に、科学的観点、動物愛護の観点、及び環境保全の観点、並びに動物実験等を行う教職員・学生等の安全確保の観点から、動物実験等の実施の方向を検討する。

(b) 動物実験計画については、計画書を提出させ、実験が適正な計画に基づいているかを審議する。特に動物実験が動物愛護の精神に沿っているか、また、実験計画が理に叶っているかを審議し、実施の可否を決定する。実験動物の愛護については、「研究機関における動物実験等の実施に関する基本指針」等の定めるところに則って、動物の数は適正か、飼育方法、手術の場合は動物に与える苦痛の程度、麻酔の有無、最終的な処分方法、などについても審議する。

(c) 動物実験実施者に対する講習会を行う。動物愛護に基づく法規の概略、および実地における注意事項を説明する。動物実験実施者は毎年１回受講する義務がある。講師は中央研究施設長とする。

動物実験部会　構成　2026 年度

部会員等の構成		数
施設長	1 号委員	1 名
動物実験等有識者	2 号委員	2 名
実験動物有識者	3 号委員	2 名
その他の学識有識者	4 号委員	1 名

動物実験部会　2026 年度　開催日（2026 年 7 月　現在）

開催日時	審議方法	主な審議事項
2026 年 5 月 11 日	第 1 回　動物実験部会	【審議事項】 ・2025 年度動物実験結果報告書および自己点検票について（12 件） ・「動物実験計画（変更・追加）承認書」について（1 件） ・「緊急時対応マニュアル」の改訂について
2026 年 5 月 18 日 ～5 月 20 日	第 2 回　メール審査	【審議事項】 ・「動物実験結果報告書」の改訂について（

動物実験講習会　開催日　　（2026 年 7 月　現在）

（2026 年度動物実験に関わる者が対象）

	開催日	受講人数
第 35 回	2025 年　12月 8 日	6 名

第 36 回	2026 年　2月 9 日	12 名
第 37 回	2026 年　4月 16 日	1 名

動物実験講習会　資料

・ 資料 1　 動物の愛護及び管理に関する法律

・ 資料 2　 動物実験処置の苦痛分類に関する解説 及び 倫理基準による医学生物学的処置に関する分類

・ 資料 3　 実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準　（環境省）

・ 資料 4　 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針及びその概要　　（文部科学省）

・ 資料 5　 動物実験の適正な実施に向けたガイドライン（日本学術会議 ）

・ 資料 6　 ヘルシンキ宣言

・ 資料 7　 藍野大学動物実験規程

・ 資料 8　 藍野大学中央研究施設使用細則及び別紙 1～16

2026 年度　承認された研究課題

	研究課題名	備考
1	腎臓に発現する新規分子の解析	更新
2	内耳再生に関する研究	更新
3	スタチンによる耳石硬化療法についての検討	更新
4	Lmo2 転写因子複合体による頭頸部および呼吸器の血管新生制御に関する研究	更新
5	Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御	更新

6	Slc:SD ラット体外循環での長期生存モデルの確立と体外循環での炎症反応抑制に向けた検証	更新
7	多チャンネル生体信号測定によるマルチモーダル感覚情報処理機構の評価	更新
8	生化学的解析による脊損度別機能的電気刺激の神経再生促進のリハビリプロトコール策定	更新
9	骨髄間質細胞をはじめとする体性幹細胞由来の神経突起伸長因子の解析	更新
10	脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の開発	更新
11	体外循環・補助循環における生理的拍動流発生装置の開発および拍動効果の検証	新規
12	終糸上衣細胞の培養方法の確立と移植効果の検討	新規

2025 年度　承認された研究課題

	研究課題名	備考
1	脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の開発	更新
2	腎臓に発現する新規分子の解析	更新
3	生化学的解析による脊損度別機能的電気刺激の神経再生促進のリハビリプロトコル策定	更新
4	終糸上衣細胞の培養方法の確立と移植効果の検討	更新
5	内耳再生に関する研究	更新
6	骨髄間質細胞をはじめとする体性幹細胞由来の神経突起伸長因子の解析	更新
7	Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御	更新
8	ラット体外循環での長期生存モデルの確立と体外循環での炎症反応抑制に向けた検証	更新
9	体外循環・補助循環における生理的拍動流発生装置の開発および拍動効果の検証	更新
10	スタチンによる耳石硬化療法についての検討	更新

11	多チャンネル生体信号測定によるマルチモーダル感覚情報処理機構の評価	新規
12	Lmo2 転写因子複合体による頭頚部および呼吸器の血管新生制御に関する研究	更新

2024 年度　承認された研究課題

	研究課題名	備考
1	脊髄損傷モデルラット、マウスを用いた神経再生治療法の開発	更新
2	体外循環・補助循環における生理的拍動流発生装置の開発および拍動効果の検証	更新
3	腎臓に発現する新規分子の解析	更新
4	脊髄損傷における新規電気刺激リハビリ方法開発へ向けた生化学的解析によるアプローチ	更新
5	終糸上衣細胞の培養方法の確立と移植効果の検討	更新
6	Lmo2 転写因子複合体による頭頸部の血管新生制御に関する研究	新規
7	内耳再生に関する研究	新規
8	スタチンによる耳石硬化療法についての検討	新規
9	骨髄間質細胞をはじめとする体性幹細胞由来の神経突起伸長因子の解析	更新
10	Lmo2 転写因子複合体による血管新生制御	更新
11	ラット体外循環での長期生存モデルの確立と体外循環での炎症反応抑制に向けた検証	更新
12	脊髄損傷ラットに対して集団での自発歩行の運動機能と形態学的分子生物学的効果の検証	更新
13	脊髄損傷モデルラットを用いた自発的リハビリテーションの有効性の検討	更新

験動物慰霊祭

2025 年 11 月 5 日にD棟セミナー室にて、実験動物のための慰霊祭を執り行いました。

慰霊祭は参列者全員が黙祷を行った後、学長のお言葉と読経、施設長からの挨拶と慰霊のことばが述べられました。

最後に、尊い命を捧げてくれた実験動物の冥福を祈り、参列者全員が献花をしました。

動物実験に関する外部検証

2017 年 10 月 25 日（水）に、公益社団法人実験動物学会外部検証委員会による

「動物実験に関する外部検証」を行いました。

2025 年度に再度外部検証を行う予定。

検証結果（別ファイル参照）

動物実験に関する自己点検・評価報告書

上記外部検証の報告書に従い、指摘点を改善し、

2021 年度における「動物実験に関する自己点検・評価報告書」を作成しました。

様式 1-2（別ファイル参照）